

---

# 帰りたい。

宮毬

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
帰りたい。

【コード】  
N3398Z

【作者名】  
宮毘

【あらすじ】  
久しぶりの投稿です。  
ハッピーエンドの練習・・・？

帰りたいな、と一人呟いて夜の街 残業帰りの重い足  
ドアを開ければ冷たい風景

ケータイのディスプレイに映るあの頃の恋人たち  
幸せに笑っていても数年したらこうなるんだって  
大きくなるたびに知って行った世界の暗さ

電気つけてふと足元を見れば落ちているアルバム  
幾年か前の卒業アルバム  
ふと懐かしくなり開いてみればはにかみ笑う君の姿

一ページめくるたびにもうこの頃には戻れないんだなって  
涙さえも出てくる虚しさ  
一人で抱え込む寂しさがこんなに大きいだなんてまだこの頃は知らない

会いたくなかった、なんてもう言えないよ  
未だにはめているおそろいのリング  
君はもう捨てたのかな 知ることなんて出来ないよ…  
冬のベランダ オリオン座  
手を伸ばして消えた君の面影  
君はまた遠くなってしまった

振り返ることが出来ないと言いたい君のメアド

少しでも一緒にいれた高校時代  
幸せとそれを呼んでもいいのかな  
多分、もうメアドは変えている  
届かないのを分かって「好き」と打ち込み送信してみる  
どうせ、送信失敗 玉砕覚悟  
溜息をついてケータイを閉じれば震えるケータイ  
もしかして、違う人になってたり  
そう考えて笑えてくる  
だけれど見れば…それは君から？

帰りたい、なんて言ってみる  
久しぶりに聞く君の声は低くて落ち着いていて…  
頬を伝う涙には何がこめられているのだろう  
夜空を見上げて薄暗い三日月を見上げた  
君から聞こえる「帰って来いよ。」の一言で  
あたしは…それだけでいいんだよ。

君がいない真夜中の街を一人歩く  
ここは都会だからあたしのところほど星は見えない  
それと同じで君の顔も見えないよ…  
切ってしまった君との会話  
君をこれ以上、困らせたくなくて  
でも…少しの期待を交えて片手にケータイ  
冬の夜 イルミネーションだけがあたしの心をぼんやり映す  
白い息に聞こえる着信音  
急いで出れば君の声がする…

「帰ってこいよ。」「ずっと待っているから。」  
離れ離れの恋人たちは  
冬の夜空の元…もう一度、出会う…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3398z/>

---

帰りたい。

2011年12月11日18時48分発行